

北海道に貢献する意欲のある若者の海外挑戦を、官民一体で応援する「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の旬な情報をお届けします！2月末時点で、第2期生8名が海外留学中です！

北海道SGH高校生ミーティングにご協力いただきました（株式会社 丸三池内様）

2月1日に北海道教育委員会が開催した、「平成30年度北海道SGH高校生ミーティング」で基金応援パートナー企業である(株)丸三池内の山川経営企画部長様から「北海道から世界を考えるヒント」をテーマに御講演をいただきました。

北海道SGH高校生ミーティングは、道内のスーパーグローバルハイスクール（SGH）指定校等の生徒が、これまでに行ってきた自校の取組についてポスターセッションで報告するなど、北海道のグローバル・リーダー育成の取組の改善につなげようというもので、全道から約50名の高校生が集まりました。

講演では山川部長から、自分の無意識のうちに制約していること、悪いことを振り返り、勇気を持って取り払い、一歩進んで欲しいとお話をいただきました。



(株)丸三池内 山川部長様

3月から留学を開始する第2期生を紹介します



スポーツコース

○氏名 田中 怜恵子 さん

○所属 北海道バーバリアンズディアナ

○留学先 ニュージーランド

○研修期間 2019年3月～(6か月間)

○留学目的

指導者と選手双方の立場からラグビーの研修に参加し、トレーニング内容のプログラミングや選手のモチベーションコントロールに着目しながら、ラグビーの指導技術を学ぶ。

○北海道への貢献

ニュージーランドスタイルの楽しむラグビーを道内ラグビー界に浸透させることで、本道女子ラグビーの更なる活性化を目指す。

事前相談会を開催します

スポーツ・文化芸術・未来の匠コースへの応募を検討されている方を対象とした「みらチャレ事前相談会」を開催します。事前相談会では、応募要件や提出が必要な書類の確認のほか、事業計画書の書き方などの相談にお答えしますので、応募を検討されている方は、是非、この機会にご相談ください（学生留学コースは、在籍する学校で相談対応）。

■日時 平成31年3月11日（月）～20日（水）9:00～17:00（この期間中、いつでもご相談いただけます（土日除く））

■場所 札幌市中央区北3条西6丁目 道庁3階 総合政策部政策局

■問合先 裏面下部に記載

※電子メール・電話による相談は、随時受け付けております。

学生留学コース

第2期生 伊藤 昂 さん アメリカ、オランダ、オーストラリア ～スポーツビジネスを学び、北海道のテニス界の国際化に貢献～

テニスの国際大会が開催されるアメリカ、オーストラリア、オランダの3か国に、10月から10か月間留学中。

1月は全豪オープンを視察しました。会場はまるでテーマパークのような雰囲気、PUBやBAR、小さな音楽FESがあるほか、試合開始までの待ち時間に、スクリーンでテニスの映像を流すなど、来場者をワクワクさせる工夫がされていました。大会運営では、テニスコート内だけに注目するのではなく、テニスコートの外で人々を楽しませ、リラックスできるスペースを設けることが重要であることを身をもって学びました。



第2期生 立岩 文武 さん オーストラリア（タスマニア）～大規模農業の手法を学び、北海道農業の持続を目指す～

大規模農業が進んだオーストラリアタスマニア州に、9月から10か月間留学中。

収穫作業の見学と果物のピッキング作業を体験しました。収穫は大型の機械により必要最低限の人数（収穫、運搬各2人）で効率的に行われており、技術と経験が必要のため、農家や農業会社の人が行っています。対してピッキングのような単純作業は、ほとんどがワーキングホリデーで来ている外国人が行っていました。彼らは、農業関連の仕事に3～6か月就くことで取得できるセカンドワーキングホリデービザのために、タスマニアに来ています。



第2期生 林 泰佑 さん フィンランド（エスポー）～木造建築技術を学び、海外との架け橋となる建築家を目指す～

森林環境が北海道と似たフィンランドで、9月から1年間、アアルト大学のウッドプログラムを受講。

最終課題である駅待合室の建築プロジェクトは、4案に絞られた案を自分のグループの案として発展させました。残念ながら自分の案は選ばれませんでした。この過程で案が持つ可能性や欠点を客観的に見る力をつけることができました。最終的に1案に絞られ、私は屋根を製作するグループに入りました。建設技術だけでなくマネジメントや、多様なバックグラウンドを持つチームでのコミュニケーションの取り方なども学ぶことができています。



第2期生 星野 愛花里さん キルギス (ビシュケク) ～種子生産やその輸出入を学び、北海道農業との連携を目指す～

種子ビジネスの発展が期待されるキルギスに、12月から1年間留学中。

農協に対してコンサルティングや販売先等を確保する役割を担っている「キルギス協同組合連盟」でインターンシップをしています。1月はコンサルティングや、JICAの「野菜種子プロジェクト」によって組織された農協事務所に同行しました。このプロジェクトは2013年に始まり、日本等の種子会社と契約して栽培を行っています。組織・供給体制が万全ではないという話を聞き、国際協力を現地人による事業へと移行させる難しさを感じました。



スポーツコース

第2期生 梅村 拓末さん ドイツ (ハイデルベルク)

～バルシューレを学び、子どもの運動課題を解決～

バルシューレの創設元ハイデルベルク大学で、7月から11か月間研修中。

ドイツではGrund Schule (グランドシューレ：日本の小学校にあたる)が4学年まであり、1月は1、2年生のバルシューレを視察しました。子どもたちの指導は、スポーツを学ぶ大学生や、スポーツを学んだことがある社会人が担当しています。話を上手に聞くことができない子、指導者の指示と全然違うことをする子もいて、指導に苦労する人もたくさんいました。私が日本で指導をしている時も、子どもたちに指示を理解させることに苦労していましたが、ドイツの指導者も同様の問題にぶつかっています。



文化芸術コース

第2期生 鴻野 祐さん フィンランド (エスポーほか)

～「木」を深く学び、デザイナーとしてまちづくりに貢献～

森林環境が北海道と似たフィンランドで、7月から1年間、現地リサーチとアアルト大学のウッドプログラムを受講。

1月は特徴的な木構造を持った建物のリサーチをチームで行い、その構造や建設方法をプレゼンテーションしました。私のチームは、Puukuokka housingというユヴァスキュラという町にある住宅についてリサーチしました。建物は木造プレハブ工法を使用して構造自体を木造プレハブの積み重ねにより構成し、工場内で生産されるプレハブを使用するためクオリティが安定しています。同じスケールの鉄筋コンクリートの建物に比べて工期が半分～3分の1に短縮されるため、費用面においても優れています。



未来の匠コース

第2期生 今村 直史さん ニューージーランド (マルボロ)

～ブドウの栽培技術を磨き、北海道を一大ワイン産地に～

ワイン用ブドウを栽培する現地ワイナリーで、11月から5か月間、北海道で未確立の栽培技術を修得中。

Churton winesでは、私を含めて常勤として約5名が働いています。人手を必要とする特別な作業がある場合は、コントラクター(日本でいう派遣社員)と呼ばれる、南洋の島国の人々を雇用します。栽培面積を増やしつつあるマルボロでは、今後は更に大きな存在になっていくとのこと。北海道においても、今後ワイン産業の成長・拡大を目指していくうえで、労働力の確保は避けられない問題になると思います。マルボロのワイン産業を支える雇用システムは、何かしらの示唆を与えてくれている気がします。



第2期生 服部 大地さん イタリア (トスカーナ)

～地産地消の調理法を学び、北海道の食の魅力を深化～

スローフード発祥の地イタリアの料理学校やレストランで、9月から6か月間、地域資源を活かした調理法を修得中。

イタリアと日本の食器の使い方などの違いを感じます。西洋料理を出す日本のレストランは、味と盛りつけ方、両方を考慮する傾向があるため、料理にあまり影響を与えない白いお皿を多用するのに対して、イタリアのレストランは古い食器を大切に、昔ながらの模様がある骨董品などをよく使っています。また、イタリアでは食事中にワインを飲みながら会話を楽しみ、みんなで笑い合っている光景がよく見られます。また、和食に関心を持ってもらうため親子丼を提供し、好評でした。



応援パートナーの皆様

(平成31年2月現在・敬称略)

有末 真哉 石川 諭史 遠藤 光二 小黒 敬三 佐藤 友昭 (税理士法人FULL SUPPORT 代表社員税理士) 鈴木 伸明 武田 孝 (拓殖工業(株)代表取締役会長)
船津 秀樹 その他匿名希望の個人・企業4者

北海道総合政策部政策局総合教育推進室

TEL : 011-206-7380 (直通) FAX : 011-232-6313

E-mail : mirai.jinzai@pref.hokkaido.lg.jp

ホームページ : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai-jinzai.htm>



助成対象者のチャレンジ風景をお届けします。

